

KYOTO → TOHOKU

立石会頭の訪問レポート



震災から2年4か月が経過しました。今回、被災地の現状を視察するため、岩手県釜石市、大船渡市、陸前高田市を訪問しました。地域によって進行具合に差はあるものの、いずれも復興には程遠い状況で、まだまだあらゆる面からの支援が必要であることが再認識できました。今後、どのように復興を遂げていくのか、また被災地のニーズにどうマッチングしていくのか、目を向けていきたいと思ひます。

釜石商工会議所を表敬訪問



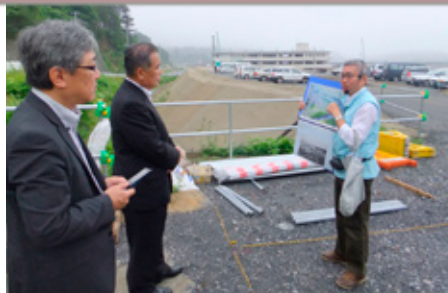
山崎会頭(右)と懇談。「復旧すままならず、人材不足、資材の高騰がネックになっている」と伺いました。

大船渡商工会議所を表敬訪問



「人口が集散せず、留まっているのは地域ビジョンが早く示された効果が大きい」と語る齋藤会頭(右)と懇談しました。

陸前高田市の市街地の現況を視察



奇跡の一本松



遊休機械無償マッチング支援プロジェクト

機械のその後を視察 有限会社釜石内燃機



遊休機械無償マッチング支援プロジェクトにより、京都からはすでに11社より293機の機械が被災地に送られています。今回はその中から株式会社カシフジ、株式会社丹後ハイテックの2社からご提供いただいた機械のその後を視察しました。

訪れたのは、釜石市内にある有限会社釜石内燃機。同社は津波により工場内のすべての機械が流出したなか、早々に事業復旧に取り組みました。同社の高橋社長からは「震災の影響で中古機械市場は高騰している中、無償で機械を提供いただけたのは本当に有難かった。頂戴した機械は現在もフル稼働しており、本当に助かっています」と、感謝の言葉をいただきました。

「遊休機械無償マッチング支援プロジェクト」とは

東日本大震災による津波などで機械を流出・損壊された事業者の復興支援を図るため、各地から無償で提供いただいた遊休機械等と被災地事業者の要望とのマッチングを行い、引き渡すプロジェクトです。